

## 平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

### 1. 学校概要

学校名 愛知県立豊田東高等学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☒ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ( )

所在地 〒471-0811 愛知県豊田市御立町 11 丁目 1 番地

E-mail : toyotahigashi-ko@pref.aichi.lg.jp

Website : http://www.toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp/

児童生徒数：男子 96 名 女子 619 名 合計 715 名  
 児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☒ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☐ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか ( 地域連携 )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

愛知県立豊田東高等学校（総合学科）は、ユネスコスクール加盟校であり、「環境教育」、「国際理解教育」、「地域連携教育」を3つの柱としてESD「持続可能な開発のための教育」活動に取り組んでいる。これらの三つの実践は、個別の分野にとどまらず、相互に関連し合っており、今後よりいっそうの内容の充実に努めていきたい。

以下に、本校の主な活動内容について、冒頭に述べたESDの3つの柱を含め、項目別にまとめて示す。

#### ア 環境教育

##### 〔主な取組〕

##### I セセラギプロジェクト

事前講義で御立公園の変遷と現状および課題を話していただいた後、一年生全員で御立公園とその周辺のフィールドワークを行った。矢作川森林塾の理事長である碓伸夫さんを中心に、多くの方々にサポートをしていただき、例年以上に多角的な研究を行うことができた。生徒たちは、「どのようにしたら人々が出会う自然豊かな公園になるのか」を考えながら、セセラギの水位調査や生物、植物調査、ゴミ拾い、大木の伐採やベンチ製作など、グループに分かれて活動した。その後の授業において、グループで散策マップや活動報告書を作成し、矢作川森林塾へ提出した。

報告書をもとに、総合発表会にて活動報告を行ない、後日、矢作川研究所主催の、矢作川学校シンポジウムに参加し、活動報告を行ない、現在の矢作川の外来種の状態を知ると共に矢作川を守るための、今後の対策と考えを発表した。

本活動は、地域の研究機関である豊田市矢作川研究所、NPO 法人矢作川森林塾などの有志団体、大同大学の教授や学生の方々などと連携を図っていることが特徴である。今後も御立公園の整備を通して地域環境研究を進めていきたい。

##### ① 10月19日（月）6限

講演会「未来につづく河畔林の整備」

講師：NPO 法人矢作川森林塾 碓伸夫氏

対象：第1学年（240名）

場所：本校プレゼンテーションルーム

##### ② 10月26日（月）6・7限

野外活動「セセラギプロジェクト」

協働団体：NPO 法人矢作川森林塾、国土交通省豊田市河川事務所、  
豊田市矢作川研究所 大同大学

対象：第1学年（240名）

場所：矢作川河畔 御立公園

##### ③ 10月29日（木）7限

野外活動「セセラギプロジェクト」

活動報告書作成

対象：第1学年（240名）

場所：各教室

##### ④ 2月10日（水）3限～6限

総合発表会：活動報告プレゼンテーションの実施

場所：本校体育館

⑤ 3月5日（土）

矢作川学校ミニシンポジウム：セセラギプロジェクト活動報告

参加者：第1学年 科学部生徒3名 第2学年 生徒会長

場所：豊田商工会議所

Ⅱ 理科の特別講座での取り組み

豊田市の山間部で問題になっている獣害について現地調査を行ない、農業総合試験場や農家で話を聴くことで、被害の実態を知るとともに、人間の生活と自然保護との両立の課題について話し合った。

① 8月26日（水）野生生物との共存 ～里山で獣害を学ぶ～

場所：愛知県農業総合試験場，豊田市小原地区

内容：1年生が「生物基礎」で取り組んだ獣害問題の現地調査。イノシシを捕らえる罠を実際に見学したほか，小原地区に移動して，現地の方と対話を行った。また，下草刈りなど，緩衝帯をつくる作業も体験した。

イ 国際理解教育

「国際理解教育」としては、マレーシア修学旅行における現地チェラス校との文化交流会で日本文化の紹介として和太鼓の演奏を披露し、二学年全員で作成した折り鶴を英文の手紙を添えて贈った。チェラス校の生徒にも「Let it go」と「上を向いて歩こう」の合唱や、「おいでん総踊り」に参加してもらい交流を深めることができた。

また、オーストラリアパスコベール女子高校訪問による現地の人々との交流、七月にはデトロイト市長訪問団と十二月には、マレーシア高校生の訪問団の本校受け入れによる部活動や授業を通しての交流活動を通して、海外の人々をより理解しようと努め、異文化理解研究を進めた。外部講師による講演会を開き、国際社会で活躍する人々の話を伺い多面的な考え方ができるように努めた。

〔主な取組〕

I

① 4月～10月

総合的な学習の時間を利用して，異文化理解研究を実施。

マレーシアの文化について調査・探究し，現地での交流計画を立案。

対象：第2学年（240名）

② 7月18日（土）～29日（水）

オーストラリア、パスコベール女子高等学校への訪問

参加者：代表生徒15名，引率教員3名

③ 7月25日（土）

デトロイト訪問団の受け入れ

部活動（箏曲部、茶道部、弓道部、剣道部、書道部）とボランティアによる和太鼓演奏者の生徒が中心となって、日本文化を紹介し、英会話部の生徒が英文による日本文化紹介パンフレットを作成し、学校内を案内した。

③ 10月12日（月）～15日（木）3泊4日

マレーシア海外修学旅行

対象：第2学年（240名）

④ 12月4日(金)

マレーシア高校生本文団の受け入れ

日本訪問中のマレーシアの高校生17名が3名の教員・保護者とともに本校を訪れ、本校生徒との交流授業と、交流会を実施した。

1年英語表現Ⅰの時間では、グループに分かれて英語で自己紹介や、互いに自国の文化紹介を行なった。リラックスした雰囲気の中、交流を楽しんだ。

業後、華やかな民族衣装で民族舞踊を中庭にて披露していただいた後、IFC部の生徒が英語で校内を案内して回った。書道体験や、日本の遊びを体験してもらった後、グループごとに会話を通しての交流会を行い、交流を深めた。

## Ⅱ 国際理解講座の実施

環境問題や国際理解をテーマにした講演会を実施した。自分の経験から得た知識や思いを、次世代を担う未来ある若者に伝えたいという熱意でお話をしていただいた。生徒たちは地域や世界の自然環境を理解するばかりでなく、グローバル時代における日本人としての生き方や、これからの自分の進路について考えを深めた。

① 10月26日(月) 二学年対象(修学旅行後の研修)

演題「マレーシアの生活と文化」

講師：オイスカ研修生 ドゥーセット・スー氏

パワーポイントに映し出される、美しい自然の花々や、エメラルドグリーンの中の家の、オラウータンのやさしい笑顔の写真などを見ながら、生徒は修学旅行で訪れた都市クアラルンプールでは見ることでできなかった田舎の生活や学校についての話を伺いマレーシアの文化についての理解を深めた。

② 11月9日(月) 一学年対象

演題「砂漠に生命を」

講師：グリーングラスロッツ代表 光岡 保之氏

ウズベキスタンでの植林活動というご自身の経験をもとに、人間の命をつなぐ生命である緑の重要性についてお話しいただいた。環境に国境はないという言葉に、環境問題にとどまらず、国際理解についても、考えた生徒たちは、自分たちが地球環境保全のために何ができるかについて考えを深めた。

③ 11月16日(月) 二学年対象

演題「グローバル時代に対する職業人人生設計のヒント」

講師：三菱総合研究所客員研究員 近藤 敏夫氏

現在の世界情勢の中で、日本人特有の、謙虚で、思いやりがあって、礼儀正しい態度、またきちんと仕事を最後まで成し遂げることができるこそが日本人の美德であり、世界で必要とされている人材であるとお話しいただいた。また、生徒たちは、内容のある言葉を、簡潔に、タイミングをみて、ゆっくりと話すことの大切さ等、国際社会のみならず、将来求められる社会人としてのあり方について考えを深めた。

④ 2月4日(木) 一学年対象(修学旅行事前学習)

演題「マレーシアの生活と文化」

講師：オイスカ研修生 ドゥーセット・スー氏

⑤ 2月15日(月) 一学年対象(修学旅行事前学習)

演題 「アジア大交流時代ー世界で活躍できる人財に！」

講師：マレーシア政府観光局 徳永 誠氏

世界経済の中でのアジアについて、また異文化理解の観点からの講演を聴くことにより、マレーシアの歴史的文化的背景について学び、異文化理解研究を深めた。

## ウ 地域連携教育

「地域連携教育」としては、桜町本通り商店街との連携を継続し、自作の紙芝居を読み聞かせたり、模擬店を出店するなど実際に地域の人々との触れ合いを通じて交流を深めている。桜町本通り商店街では一昨年から12月と1月の夜、足助の「たんころりん」にヒントを得て、あんどんを灯している。今年度もそのあんどんの絵付けを美術部、書道部が担当し、三十九基を作成した。このあんどんは商店街で灯すだけでなく、2月に行われた総合発表会のフットライトとして活用した。

また、調理実習で獣害問題になっているイノシシの肉を利用し、自分達で工夫し考えた創作料理を調理している。

### 〔主な取組〕

#### ① 5月24日（日） ふれ愛フェスタ2015

参加者：保育プラン、写真科学部・科学班、美術部、JRC部、  
家庭部156名が参加

内容：駅前商店街の活性化イベントにおける催し物の企画・運営

写真科学部（科学班）によるスライムの作成、JRC部による「射的」や「あたってくるくる」、美術部の手作りジグソーパズル、保育プランによる手作りのゲームに挑戦したり、紙芝居による心のこもった読み聞かせを熱心に聴いたりするなど地域の子どもたちの笑顔が印象的だった。また、3年生ボランティアを中心とした「フリーマーケット」、家庭部による焼きそば、ホットドッグ、クレープ、五平餅の模擬店など大盛況でした。地域の人々とのふれあいを通して、参加した生徒にとっても意義深い一日になった。

場所：桜町本通り商店街

#### ② 8月8日（土）、11月8日（日） チーム八日市

内容：桜町本通り商店街において、毎月8日に開かれる「八日市」が学校休業日と重なったときに、販売補助や部活動の野外発表を実施。

8月は17名のボランティア 科学部部員、合唱部員が歌声を披露、11月は14名のボランティア、科学部部員、箏曲部員が演奏を披露した。

場所：桜町本通り商店街

#### ③ 10月31日（土）とよたアートハロウィン

内容：2年美術プランの生徒8人が幅3.6メートル、高さ1.8メートルのパネル三枚に豊田スタジアムや豊田大橋を背景にお化けがお菓子を取り合う物語などを描き展示した。また3年服飾プランの有志8人はハロウィン当日の31日に会場に訪れる子ども達に着てもらうハロウィンの仮装用衣装を製作した。

場所：豊田のまちなか（GAZA 広場）

#### ④ 12月18日 レッドリボンメッセージコンサート

内容：豊田市、ソロプチミスト豊田と連携した12月のエイズ防止キャンペーン

合唱部が歌を披露し、JRC部がエイズ啓発メッセージを発表した後、最後に吹奏楽部が演奏を行なった。

参加者：JRC部、合唱部、吹奏楽部

場所：豊田市駅前通り

以上のように、本校の地域連携は、部活動によるボランティア参加のほか、各科目選択プランの授業実践の場として機能している。

## おわりに

これらのESD活動は、異文化理解、自然との共存、地域社会とのかかわりについて考えを深め、将来持続可能な社会を形成していくために将来自分は何をしたいのか、何ができるのか考える場になっている。また、地域の人々、社会人の人々、海外の人々との交流活動を通して、相手に喜んでもらうことが生徒にとっても喜びであり、今後の活動へのエネルギー源となっている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☒ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（